

特別寄稿「3.11 東日本大震災への私たちの関わり」 東海北陸支部 K.H & N

3つの事で微力ですが、自分なりにできることをしています。

1) 2011年5月 石巻市へボランティアで救援に入りました

2人揃って家を空けることができないので、夫と交代で行きました。私はキッチンで調理にあたり、朝7時から夜7時までの12時間労働でした。高台にある専修大学のキャンパスの一隅でテントの下、足元はドロコという台所でした。途中から市内の漁港近くの料理屋さんが(再起不能のため)場所を提供してくださり、屋内での台所となりました。8日間お風呂にも入れませんでした。天候の悪い日々で、ただただ寒い中で働きました。被災者の方々は3月にはどれだけ寒かったかと痛感しました。

夫は避難所に食事を運ぶデリバリーの仕事と強力水噴射機による家屋の洗浄、その他あらゆる土方仕事に当たりました

ボランティアは10人中2人が外国人でした

今の若者もなかなか良いと見直しました

世界一周の船旅に出ようとした人がその説明会で災害ボランティアのポスターを見て、何かしらないでは旅に出られないと、石巻に来て私とキッチンの引き継ぎをしました。それが何と私の友人で数十年ぶりの再会でした。

2)2011年6月から福島県飯館村へ定期的に支援に入っています

夫と交代でそれぞれ月に2回週末に東京経由東北新幹線で通います。

無人の村です。放射線の除去のための測定や再生の道を探っています。私は無能ですが、仲間は物理や農業の権威で我々の方策や見通しに、この頃は霞が関の役人さんも耳を傾けるようになってきています。政府も役人も皆初めてのことで無策なのですから、力を合わせるしかありません。

でもこれを書いていると長くなります。インターネットで“ふくしま再生の会”のホームページをご覧ください。できたら仲間に加わって下さい。全国から参加したり、心を寄せてくれています。

3)2012年8月 東北の被災小学生を長野県下諏訪町へホームステイにご招待

岩手県山田町の小学生 10名をわが町へ招待。山田町から新幹線盛岡駅までバスで3時間。盛岡へ出たのも始めてという生徒もほとんどでした。東京経由で下諏訪までJR利用。2人ずつ5軒の家にステイしました。ホストファミリーは口コミや地方新聞で呼びかけました。割に早く決まりました。4軒は小学生のいる家で、すぐに子どもたちは馴染み、心配はありませんでした。私はホームステイの責任者でしたので、ほっとしました。母を亡くした子、これから母子でどこかへ引っ越さなければという子、様々でした。霧ヶ峰の高原と諏訪湖を主に観光し、楽しんでもらいました。今も交流が続いています。費用は旅費などで約60万円掛りました。寄付を募ったり、皆で補いました。子どもたちの笑顔が忘れられません。ホストファミリーが“参加できて良かった”と言ってくれました。感謝です。

できる事を心を尽くしてさせてもらうこと、それが生きている事かな？

合間に旅もしています。

写真の説明

2012年5月 福島飯館村 除染の後、実験用の田植えに備えて「代掻き」作業 K.H

2012年8月13日 霧ヶ峰ハイキング

